

名古屋大学附属図書館の構成

附属図書館は、1939年に設立されました。教育・研究活動の支援を目的とする学内の学術情報流通のセンターとして、中央図書館、医学部分館、部局図書室が連携してサービスを行っています。

中央図書館

中央図書館は、1981年に竣工し、1994年に増築しました。全学の学習図書館機能と研究図書館機能、保存図書館機能を持ち、サービス・業務の総合的図書館機能を果たしています。

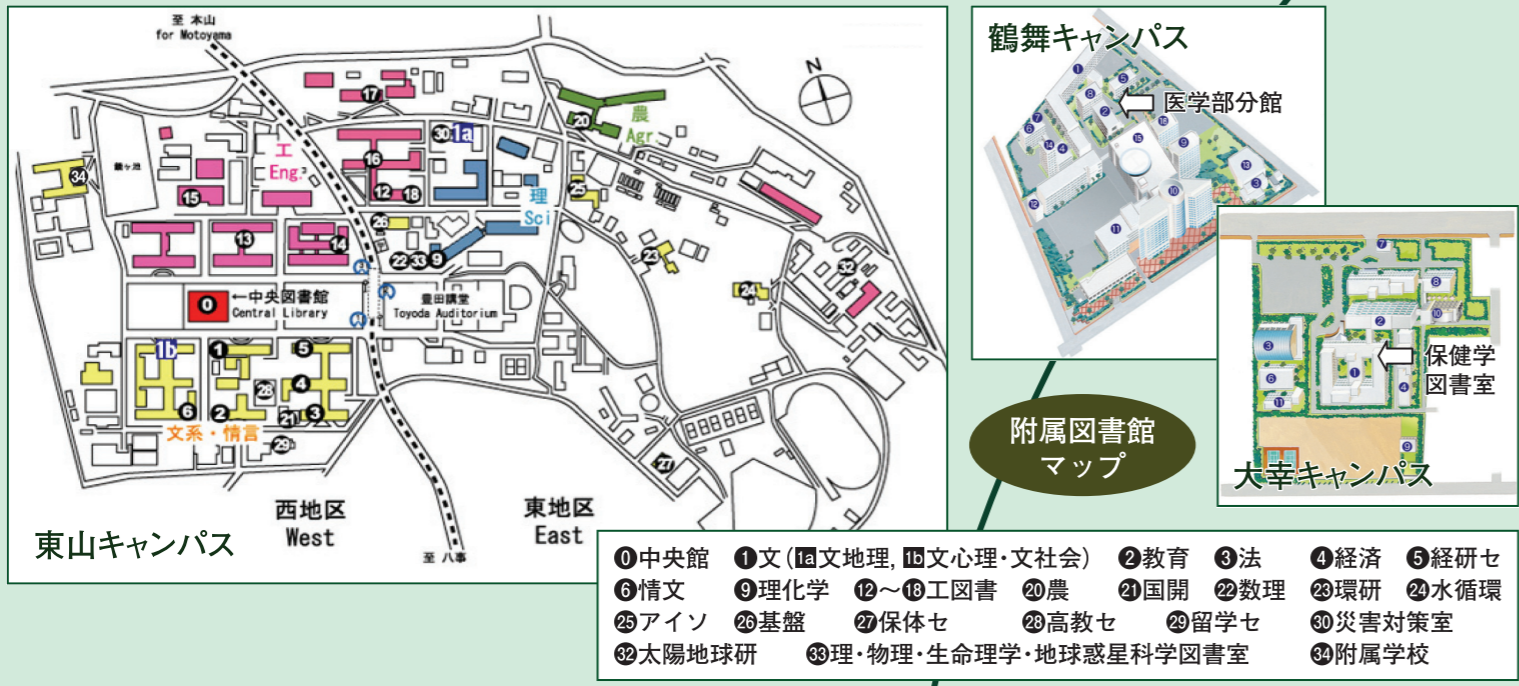
医学部分館および保健学図書室

鶴舞・大幸両キャンパスの医学系研究科、医学部医学科・同保健学科、附属病院等の教職員・学生等を対象とした図書館です。

部局図書室

学内には、学部・研究科、研究所、センターなどの部局図書室が30余りあり、専門図書館としてのサービスを行っています。

数字で見る附属図書館		123	平成20年度
附属図書館			
サービス対象者	24,172人(内、学部学生 9,995人)		
閲覧席数	1,880席		
蔵書数	2,972,350冊(内、中央図書館 1,078,948冊)		
電子ジャーナル提供数	22,072種(内、外国雑誌 21,391種)		
電子ジャーナル利用件数(全文表示件数)	1,474,041件		
財政状況(平成19年度決算)	10億2,800万円		
中央図書館			
年間開館日数	354日		
年間入館者数	710,463人		
館外貸出冊数	135,930冊		



名古屋大学附属図書館のミッション

1. 附属図書館は、「名古屋大学学術憲章」に基づく名古屋大学の教育研究活動が必要とする学術情報の利用提供を担う中心機関として機能し、その活動の支援を行う。
2. 急速に進む学術情報の電子化に対応する学術情報基盤としてハイブリッド図書館化を推進すると共に、名古屋大学の教育研究成果の発信機関として機能し、教育研究活動の支援を行う。
3. 高度に情報化された21世紀社会と緊密な交流を持ち、文化の継承と社会への貢献の役割を果たすため、広く自由に開かれた学術情報の利用提供を行う。
4. 学術情報の国際的な受信・発信を推進すると共に、その利用提供の中心的機関として機能し、広く世界の学術活動に奉仕する。

名古屋大学 附属図書館

Nagoya
University
Library

2009

附属図書館 研究開発室

2001年4月に設置された附属図書館研究開発室では、全学における教育研究の支援機能の高度化を図るため、電子情報源と伝統的紙媒体資料を統合したハイブリッド・ライブラリーの実現に向けた研究開発を行っています。

現在、室長(図書館長兼任)、専任の特任准教授、助教各1名、兼任室員9名、学外の研究協力者5名の、総勢17名で、広範な視点から研究、講義、講演会、展示会などの活動を展開しています。

主な研究課題

- ハイブリッド・ライブラリーの研究開発
- 図書館情報リテラシー教育の普及と高度化
- 貴重資料のデジタルアーカイビング
- 地域諸施設との連携と地域社会への貢献
- 研究学習情報資源の全国共有戦略
- 新しい研究手法や融合領域に対する支援
- LIBST Newsletter(年3回)
- 附属図書館研究年報
- 附属図書館研究開発室年次報告

進化する学術情報拠点



名古屋大学附属図書館 2009
平成21年7月

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 052-789-3667(代表)
Fax 052-789-3693
メール shomu@nul.nagoya-u.ac.jp



名古屋大学附属図書館 友の会

「友の会通信」の発行・配布、「ふみよむゆふべ」の開催と会員の交流
一般会員募集中です！ 年会費 2,000 円
ご入会は、附属図書館内 友の会事務局(電話 052-789-3666)までご連絡下さい。
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/index.html>

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>

教育・研究用コレクションの充実

中央図書館の貴重書コレクション

- **高木家文書**
美濃国の豪族で旧旗本の高木家に伝わる「宝暦治水」等、木曾三川の治水、領内村方支配、財政、家政関係の文書 10万点
関連文書：日比家文書(旧養老郡沢田村(現養老町)の豪農日比家に伝来した文書 5,000点)、岡田家文書(尾張国海東郡長須賀村の庄屋を世襲した岡田家旧蔵文書群。村政ほか、永徳・稲富・稲永・神宮寺などの新田経営、家政関係史料からなる)
- **伊藤圭介文庫**
日本における近代植物学の祖といわれる伊藤圭介の自筆稿本等 188冊
- **ホブズ・コレクション**
Thomas Hobbes の著作及びその影響の下に展開されるイギリス近代思想史に関する原点のコレクション 880冊
関連コレクション：永井文庫(永井義雄名古屋大学名誉教授の旧蔵書で近代イギリス経済学史・思想史関係の原典 600点)、リトルトン卿収集パンフレット集成(社会、教育、労働問題に関するパンフレット 1,593冊)、18世紀フランス自由思想家コレクション(百科全書派その周辺の多様な思想家の著作 514冊)
- **その他の貴重書**
青木文庫(中国前近代の詩文詞曲、青木正兒博士の手稿手摺本 漢籍 1,300冊)、神宮皇学館文庫(宗教、文学、法制、経済に関する和漢書 14,295冊)、フーバッチュ教授旧蔵書(プロイセンの政治、歴史、軍事ほか 図書 3,869冊ほか)、H. P. イブセン博士旧蔵書(欧州の憲法、法律など 2,049冊)

部局図書室の特色あるコレクション

- **瀧川文庫**(法学図書室, 中央図書館配架, 約2万点)
- **ベックハルト文庫**(経済学図書室, 1,962冊)
- **イギリス革命関係文献コレクション**(経済学図書室, 664点)ほか
- **石井文庫**(生命農学図書室, 1,635冊)
- **ヒルベルト文庫**(数理学図書室, 11,600冊)

展示会・講演会

- 2007(平成19年)
 - 6 春季特別展・講演会「王権と社会—朝廷官人・真継家文書の世界—」
 - 10 秋季特別展・講演会「「遊心」の祝福—中国文学者・青木正兒の世界—」
- 2008(平成20年)
 - 4-5 春季特別展・講演会「濃尾の医術—尾張藩奥医師 野間家文書を中心に—」
 - 10 秋季特別展・講演会「西洋近代思想と永井文庫—最大多数の最大幸福を求めて—」
 - 11 源氏物語千年記念事業展示会・講演会「源氏物語の書物と絵画」
- 2009(平成21年)
 - 5-6 春季特別展・講演会「旗本高木家主従の近世と近代—高木家文書と小寺家文書—」



ラーニング・commons

中央図書館の2階は、ラーニング・commonsとして、学生の多様な学習ニーズと学習形態(自習, グループ学習, 授業等)に対応したサービス空間に生まれ変わります。学習に必要な情報資源や情報技術の利用と活用方法についての助言等を統合して提供することにより、情報リテラシー教育を促進し、効果的な学習と教育の質の向上を目指しています。



学術情報のデジタル化の進展



サービスの高度化に向けて

- 2007(平成19年)
 - 4 CiNii(国立情報学研究所論文情報ナビゲータ)の機関定額制正式導入
 - 4 中央図書館休日開館時のサービス拡大(研究個室・共同研究室・グループ研究室の利用, 視聴覚資料の電算貸出)
 - 6 中央図書館平日の貸出時間の延長
 - 8 「Historical Maps and GIS」国際研究集会を環境学研究科の魅力ある大学院教育イニシアティブ等と開催
 - 12 中央図書館開館日の拡大(書架整理のための休館日廃止)
- 2008(平成20年)
 - 1 Blackwell Reference Online(266タイトルの辞書・事典・ハンドブック等の洋書)の正式導入
 - 3 東海地区デジタルレファレンスフォーラム開催
 - 10 ホームcomingデーで「本のリユース市」を開催
- 2009(平成21年)
 - 3 東海北陸地区「ラーニング・commons」フォーラム開催
 - 3 ラーニング・commons(第1期)オープン
 - 4 中央図書館早朝(8時)開館の開始
 - 4 ESCO サービス(省エネルギーのための, 設備の維持・管理等の包括的なサービス)開始

附属図書館の刊行物

